



トラストだより



ブナにできたクマ棚（兵庫県戸倉トラスト地（120ha）内 2017.11.14 撮影）

トラスト地で感じる生き物との共存の喜び

理事長 室谷 悠子

いつも当財団をご支援いただきありがとうございます。

この秋、兵庫県の戸倉トラスト地のブナ林でクマ棚が確認されました。クマ棚はクマが木に登り枝を折って実を食べた痕跡です。クマは実を食べた後の枝を、次々とおしりに敷き、それが木の幹に作られた棚のように見えます。臆病なクマは奥山であっても人前に姿を見せることはほぼありませんが、注意深く観察すると彼らが生きている証と出会えることもあります。

近年、生物多様性に富むとされてきた奥山でも荒廃が顕著になり、生き物にとって安住の地ではなくなっています。トラスト地で豊かな森の指標であるツキノワグマの痕跡を見つけることができたときは、厳しい環境にあっても彼らが生きてくれていることへの感動と、そのような場所を永久に保全するためにナショナル・トラストができたことに喜びを感じる瞬間です。野生動物との共存の思いは、彼らが、私たちと同じように必死で生きていく姿を感じるにより醸成されるように思います。

トラスト地内での野生動物の姿をみなさんにも感じていただけるような取組もたくさん実施していきたいと考えています。

クレジットカードで会費・ご寄附のお振込みができるようになりました！

クレジットカードによる会費・寄附金納入は、当会への着金の都合上、平成29年11月以降のご利用は、平成30年度分領収書になります。



ホームページから
お願いします。

会費：<http://okuyamatrust.org/donation/nyukai>
ご寄附：<http://okuyamatrust.org/donation/kifu>



兵庫県戸倉トラスト地

人工林を大規模に伐採！

兵庫県・宍粟市・しろう森林組合と協力しての広葉樹林復元事業

全面積120haある戸倉トラスト地は1割程度がスギの人工林です。これまでもスタッフやボランティアなどで小面積を皆伐してきましたが、大規模な広葉樹林化を実施したいと、昨年から兵庫県、宍粟市、森林組合などの関係機関と交渉を進めてきました。

2017年8月、ついに大規模な人工林伐採がスタート。約0.58haを森林組合に伐採してもらい、大きな空間ができ、地面に光が入るようになりました。

2018年春には、伐採跡地に兵庫県の広葉樹林化促進パイロット事業を使い、防鹿柵内に広葉樹を植える予定です。

今後の広葉樹林復元のモデルとなるような場所にしていきたいです。みなさんに復元の過程を見ていただくツアーの企画も考えています。



現場を視察する理事長とスタッフ

多様性衰退の原因をさぐる



近年、兵庫県では自然林の下層植生がほとんど消えた

金井塚先生からは、この山は、本来溪畔林にあるべきカエデ類やウワミズザクラ、ミズキなどの液果類が極端に少なく、そのことが動物の多様性の貧弱化につながっていることや、クマが高密度で1年間定着するには森の多様性と生産力が弱すぎるという指摘を受けました

今後の森復元に生かすためにもカメラ設置による動物の行動調査や潜在植生の把握を進め、奥山の生物相の空洞化を防ぐためにできることを考えていきたいと思ひます。

近年、原始的な森でも、下草が消え、生き物の痕跡が見られない場所が増えています。戸倉トラスト地もその1つです。

荒廃の原因を調べるため、大型野生動物の専門家である生態学者、広島県フィールドミュージアム代表の金井塚先生に調査に入ってくださいました。

下層植生が消えた原因は、シカの食害だけではなく、雪解け時に急傾斜地で表土が流れることや、ササの一斉開花後の枯死が重なったことも一つと考えられるとのことでした。ササの芽生えも確認でき、徐々に植生が回復しつつある場所もありました。



トチの幹についたクマの爪痕。トチに絡まるヤマブドウを食べに来たと思われる。古い痕跡は多くあるが新しいものが少ない。

<寄附口座のご案内>

土地取得・トラスト地管理資金
等にご協力ください

・ゆうちょ銀行振替口座 00920-4-305993
(口座名) 公益財団法人奥山保全トラスト